

公立大学法人・大分県立看護科学大学
平成21事業年度の業務実績に関する評価結果

(全体評価)

(大項目評価)

平成22年7月

大分県地方独立行政法人評価委員会

1 全体評価

評価結果と判断理由

評価結果

全体として年度計画及び中期計画を順調に実施している。

判断理由

○大項目のうち「Ⅰ大学の教育研究等の質の向上に関する目標」の項目の評価については、S評価（特筆すべき進行状況にある）が妥当であると判断した。また、「Ⅱ業務運営の改善及び効率化に関する目標」、「Ⅲ財務内容の改善に関する目標」、「Ⅳ教育、研究、社会貢献及び組織運営の状況に関する自己点検・評価並びに当該状況に係る情報の提供に関する目標」、「Ⅴその他業務運営に関する目標」の項目の評価については、A評価（計画どおり進んでいる）が妥当であると判断した。

○「Ⅰ大学の教育研究等の質の向上に関する目標」の項目については、NP（診療看護師）の制度化に向けた調査や特区の提案、要望書の提出などの活動が「特定看護師（仮称）」の導入に向けた動きにつながったこと、保健師・助産師の養成の大学院化に向け取り組んだこと、学生の学習充実のための進級試験の導入とフォロー体制を整備したことを高く評価した。さらに、看護国際フォーラムの開催、ウズベキスタンの「看護教育改善プロジェクト」のフォローアップ評価を実施したことなどで国際社会へ大きく貢献していることなどから、「Ⅰ大学の教育研究等の質の向上に関する目標」の項目については、S評価（特筆すべき進行状況にある）とした。

○以上の大項目評価を考慮して全体評価の結果としては、「全体として年度計画及び中期計画を順調に実施している」とした。

<委員会からのコメント>

- ・大分県立看護科学大学は、地方独立行政法人化4年目においても、中期目標の達成に向けた年度計画を学部・大学院・卒後教育において着実に活動展開しており、特に、全国に先がけ保健師・助産師の養成の大学院化へ取り組んだこと、NPに関連した特区提案等を行ったことがきっかけになり「特定看護師（仮称）」の制度化へ向けて前進したことなど、理事長のリーダーシップのもと教職員が一体となって順調に取組が進められている。
- ・中期目標期間（H18～H23）も残すところあと2年だが、今後も中期計画の達成と魅力ある大学づくりに向け、更なる取組を期待する。

【参考：大項目評価の結果】

I 教育研究等の 質の向上	S 特筆すべき 進行状況	A 計画どおり	B おおむね 計画どおり	C やや遅れて いる	D 重大な改善 事項あり
II 業務運営の改 善及び効率化	S 特筆すべき 進行状況	A 計画どおり	B おおむね 計画どおり	C やや遅れて いる	D 重大な改善 事項あり
III 財務内容の改 善	S 特筆すべき 進行状況	A 計画どおり	B おおむね 計画どおり	C やや遅れて いる	D 重大な改善 事項あり
IV 自己点検・評 価並びに情報提 供	S 特筆すべき 進行状況	A 計画どおり	B おおむね 計画どおり	C やや遅れて いる	D 重大な改善 事項あり
V その他業務運 営	S 特筆すべき 進行状況	A 計画どおり	B おおむね 計画どおり	C やや遅れて いる	D 重大な改善 事項あり

2 大項目評価

I 大学の教育研究等の質の向上に関する目標

(1) 評価結果

評価結果	S 特筆すべき 進行状況	A 計画どおり	B おおむね 計画どおり	C やや遅れて いる	D 重大な改善 事項あり
------	--------------------	------------	--------------------	------------------	--------------------

- 小項目評価の集計結果では、76項目のすべてがⅢ（順調に実施している）又はⅣ（上回って実施している）の評価であるため、A評価（計画どおり進んでいる）となる。
- 下記の「大項目評価に当たり勘案した事項」に示すように、NP（診療看護師）の制度化に向けた調査や特区の提案、要望書の提出などの活動が「特定看護師（仮称）」の導入に向けた動きにつながったこと、保健師・助産師の養成の大学院化に向け取り組んだこと、看護国際フォーラムの開催、学生の学習充実のための進級試験の導入とフォロー体制の整備、ウズベキスタンの「看護教育改善プロジェクト」のフォローアップ評価を実施するなど計画以上の成果を上げている。
- 小項目評価の中にⅡ（十分に実施できていない）又はⅠ（実施していない）の評価の項目は認められない。
- 以上のことから大項目評価としては、S評価（特筆すべき進行状況にある）が妥当であると判断した。

【参考：大項目評価に当たり勘案した事項】

- ※特筆すべき項目
小項目評価がⅣ（上回って実施している）の項目は、次のとおりであった。
なお、【2】は公立大学法人が小項目の重要性等を考慮して行ったウエイト付けである。
(I-1-(1)ア(イ)a-1)a-2)a-3)a-4)【2】
- 新たな総合実習施設における学生の実習状況のチェック
・開拓した施設のカンファレンスに参加するとともに実習指導者と話し合いを持った。これにより充実した内容の実習が行えた。
- 教員を臨床看護師として派遣し研修を実施
・臨床との乖離をなくすため、県外の医療機関に6名の教員を臨床看護師として派遣し、医療・看護技術の習得研修を行った。
- 実習代表者会議の設置と医療事故の意識付けの実施
・各実習の連携や情報交換を図り、個々の学生に対応した。また、実習時の事故対応マニュアルの見直しとともに、実習のオリエンテーション時に医療事故に関する時間を新たに設け意識付けを行った。
- 新カリキュラムの実施
・実習単位数の増加に伴う1日の実習時間を変更した。また、実習病院先に対し新カリキュラムについての説明会を実施した。
(I-1-(1)イ(ア)c-1)c-2)c-3)c-4)c-5)【2】
- ONPの大学院教育の推進
・米国におけるNP活動の実践者による研修会を実施した。老年NP実習のため教育環境の整備、実習施設の開拓、カリキュラム及び実習前能力試験の見直しを行った。小児NPコースを開講した。
- ONPの制度化に向けた活動の推進
・モデル地区の無医地区および過疎地域で医療福祉サービス利用の実態やNPに関する調査を行った。また、特区の提案を内閣府に行った。こうした取組みをきっかけ

として、厚生労働省は「チーム医療の推進に関する検討会」を発足させ、「特定看護師（仮称）」の制度化への取組みにつながった。

(I-1-(1)イ(ア)f-1)f-2)f-3)【2】

○NP養成教育を他大学に広げるための活動の継続

- ・NP連絡会を発展的に解消し、NP教育を進める大学とその教育内容に関わる教員あるいはNP養成に賛成する医療関係者を会員とする「日本NP協議会」を中心となり設置した。NP協議会から厚生労働省に対して、NPに関する要望書を提出した。

○保健師・助産師の資格取得の大学院化

- ・大学院での助産学教育の効果を検証し、結果を論文にまとめた。
- ・保健師教育の大学院化に向けた準備を開始した。

(I-1-(2)イa-1)a-2)【2】

○進級試験の実施

- ・進級試験を実施し、導入効果の評価を試みた。再試験対象者に対する説明会や補講を実施し、不合格者が生じないよう努め、不合格者がでた場合のフォロー体制を整えたが全員合格した。

(I-2-(1)アb-1)b-2)【2】

(I-2-(2)アc)【2】

○研究の推進

- ・健康増進プロジェクトでメンバーを増員し、研究を推進した。
- ・地域連携研究コンソーシアム大分で4課題の共同研究を実施した。

(I-2-(2)イd-1)d-2)【2】

○看護国際フォーラムの開催

- ・開学以来継続してきた看護国際フォーラムを韓国、オーストラリア、国内の講師を招聘し別府ビーコンプラザで開催した。

(I-3-(1)a-1)a-2)【2】

○認定看護師コースの体制づくり

- ・認定看護師（訪問看護）教育課程で10名が修了した。安定的に研修生を集めるため大学としての特徴をアピールした募集を行った。また、日本財団から運営助成金を受け取った。
- ・認定看護師コースのカリキュラムの見直しを実施した。

(I-3-(2)a)【2】

○ONPプロジェクトの推進

- ・「NPコースのプログラム評価」をテーマに、米国及び韓国から講師を招聘し国際会議を実施した。

(I-3-(2)b-1)b-2)【2】

○ウズベキスタンの「看護教育改善プロジェクト」のフォローアップの実施

- ・国際医療研究委託事業費を獲得しJICAと共同して、終了したプロジェクトのフォローアップ評価を実施した。
- ・JICA「看護教育改善プロジェクト」の一環としてウズベキスタンから約2週間の中期研修員7人と4日間の短期研修員3人を受け入れた。

【参考：小項目評価の集計結果】

分類	評価対象項目数	I 実施して いない	II 十分に実 施できて いない	III 順調に実 施してい る	IV 上回って 実施して いる
教育	50(4)			46	4(4)
研究	13(2)			10	3(2)
社会貢献	13(2)			10	3(2)
合計	76(8)			66	10(8)
ウエイト考慮 後の合計	84			66	18

(注) 1 () は、ウエイト付けした項目数である。

2 大項目評価は、ウエイト考慮後のⅢ及びⅣの割合により決定する。

※小項目評価の集計結果では、76項目のすべてがⅢ又はⅣの評価であるため、A評価（計画どおり進んでいる）となる。ウエイト付けした項目を考慮しても同様の結果である。

(3) 評価に当たっての意見、指摘等

○全国に先駆けてのNP制度化に対する活発な活動や、長期にわたるウズベキスタンへのJICA「看護教育改善プロジェクト」による取組は、特筆すべき活動である。

○保健師・助産師教育の大学院化について、まだ他大学が様子見をしている状況で率先して一歩先を行き素晴らしいと思う。

○4年間で看護師資格しかとれないことが他の大学との競争でマイナスにならないように、きちんと説明していく必要がある。

Ⅱ 業務運営の改善及び効率化に関する目標

(1) 評価結果

評価結果	S 特筆すべき 進行状況	A 計画どおり	B おおむね 計画どおり	C やや遅れて いる	D 重大な改善 事項あり
------	--------------------	------------	--------------------	------------------	--------------------

(2) 判断理由

- 小項目評価の集計結果では、8項目のすべてがⅢ（順調に実施している）の評価であるため、A評価（計画どおり進んでいる）となる。
- 小項目評価の中にⅡ（十分に実施できていない）又はⅠ（実施していない）の評価の項目は認められない。
- 以上のことから大項目評価としては、A評価（計画どおり進んでいる）が妥当であると判断した。

【参考：大項目評価に当たり勘案した事項】

特筆すべき小項目や遅れている小項目はない。

【参考：小項目評価の集計結果】

分類	評価対象項目数	Ⅰ 実施して いない	Ⅱ 十分に実 施できて いない	Ⅲ 順調に実 施してい る	Ⅳ 上回って 実施して いる
運営体制	1			1	
人事の適正化	7			7	
合計	8			8	

(注) ウェイト付けした項目はない。

※小項目評価の集計結果では、8項目のすべてがⅢ又はⅣの評価であるため、A評価（計画どおり進んでいる）となる。

(3) 評価に当たっての意見、指摘等

- 理事長の強いリーダーシップのもとに機能的な大学運営が図られており、予算の重点領域への集中的な配分、国家試験対策に特任教授を採用するなど人事の適正化に伴う人材登用などに積極的な業務運営改善の努力が認められる。

Ⅲ 財務内容の改善に関する目標

(1) 評価結果

評価結果	S 特筆すべき 進行状況	A 計画どおり	B おおむね 計画どおり	C やや遅れて いる	D 重大な改善 事項あり
------	--------------------	------------	--------------------	------------------	--------------------

(2) 判断理由

○小項目評価の集計結果では、4項目のすべてがⅢ（順調に実施している）の評価であるため、A評価（計画どおり進んでいる）となる。
 ○小項目評価の中にⅡ（十分に実施できていない）又はⅠ（実施していない）の評価の項目は認められない。
 ○以上のことから大項目評価としては、A評価（計画どおり進んでいる）が妥当であると判断した。

【参考：大項目評価に当たり勘案した事項】

特筆すべき小項目や遅れている小項目はない。

【参考：小項目評価の集計結果】

分類	評価対象項目数	Ⅰ 実施して いない	Ⅱ 十分に実 施できて いない	Ⅲ 順調に実 施してい る	Ⅳ 上回って 実施して いる
事務効率化・ 経費抑制	1			1	
外部資金等の 獲得	1			1	
資産の適正管 理・有効活用	2			2	
合 計	4			4	

(注) ウェイト付けした項目はない。

※小項目評価の集計結果では、4項目のすべてがⅢ又はⅣの評価であるため、A評価（計画どおり進んでいる）となる。

(3) 評価に当たっての意見、指摘等

特になし

IV 教育、研究、社会貢献及び組織運営の状況に関する自己点検・評価並びに当該状況に係る情報の提供に関する目標

(1) 評価結果

評価結果	S 特筆すべき 進行状況	A 計画どおり	B おおむね 計画どおり	C やや遅れて いる	D 重大な改善 事項あり
------	--------------------	------------	--------------------	------------------	--------------------

(2) 判断理由

○小項目評価の集計結果では、8項目のすべてがⅢ（順調に実施している）の評価であるため、A評価（計画どおり進んでいる）となる。
 ○小項目評価の中にⅡ（十分に実施できていない）又はⅠ（実施していない）の評価の項目は認められない。
 ○以上のことから大項目評価としては、A評価（計画どおり進んでいる）が妥当であると判断した。

【参考：大項目評価に当たり勘案した事項】

特筆すべき小項目や遅れている小項目はない。

【参考：小項目評価の集計結果】

分類	評価対象項目数	Ⅰ 実施して いない	Ⅱ 十分に実 施できて いない	Ⅲ 順調に実 施してい る	Ⅳ 上回って 実施して いる
自己点検・ 自己評価	4			4	
情報公開	4			4	
合 計	8			8	

(注) ウエイト付けした項目はない。

※小項目評価の集計結果では、8項目のすべてがⅢ又はⅣの評価であるため、A評価（計画どおり進んでいる）となる。

(3) 評価に当たっての意見、指摘等

○ホームページやメディアを通じて、大学の教育研究活動、社会貢献の成果を積極的に情報提供し、海外にも広く展開していることは評価に値する。

V その他業務運営に関する目標

(1) 評価結果

評価結果	S 特筆すべき 進行状況	A 計画どおり	B おおむね 計画どおり	C やや遅れて いる	D 重大な改善 事項あり
------	--------------------	------------	--------------------	------------------	--------------------

(2) 判断理由

○小項目評価の集計結果では、9項目のすべてがⅢ（順調に実施している）の評価であるため、A評価（計画どおり進んでいる）となる。
 ○小項目評価の中にⅡ（十分に実施できていない）又はⅠ（実施していない）の評価の項目は認められない。
 ○以上のことから大項目評価としては、A評価（計画どおり進んでいる）が妥当であると判断した。

【参考：大項目評価に当たり勘案した事項】

特筆すべき小項目や遅れている小項目はない。

【参考：小項目評価の集計結果】

分類	評価対象項目数	Ⅰ 実施して いない	Ⅱ 十分に実 施できて いない	Ⅲ 順調に実 施してい る	Ⅳ 上回って 実施して いる
施設・設備の 整備・活用					
安全管理	6			6	
モラル・人権 啓発推進	3			3	
合 計	9			9	

(注) ウェイト付けした項目はない。

※小項目評価の集計結果では、9項目のすべてがⅢ又はⅣの評価であるため、A評価（計画どおり進んでいる）となる。

(3) 評価に当たっての意見、指摘等

特になし